

## 三茶のミライ（素案）への区民意見と区の考え方

### 1 区民意見募集概要

#### (1) 意見募集期間

令和3年9月15日(水)～令和3年10月6日(水)

#### (2) 周知方法

区のおしらせ「せたがや」9月15日号、ホームページ、区公式Facebook、Twitter、メールマガジン、YouTube配信、区政PRコーナー、第4回三軒茶屋駅周辺まちづくり会議（令和3年9月25日開催）

### 2 区民意見提出状況

#### (1) 区民意見募集

① 意見提出人数 18人（封書1人、ファクシミリ1人、持参1人、ホームページ15人）

② 合計意見数 38件

大項目	中項目	件数
第1章 「三茶のミライ」策定の趣旨	背景と目的	
	策定にあたって	
	対象区域	
	位置付け	
	基本方針	
第2章 「三茶のミライ」で 描くまちの未来像	「まちの未来像」の描き方	
	まちづくり会議と まちづくりシンポジウム	
	まちづくりのテーマ	
	9つの未来像	1
第3章 9つの未来像実現に向けて	基本方針の方針・方策と 9つの未来像の繋がり	
	体系	
	未来像を実現したまちの姿	24
	未来像実現のための取組み	
第4章 今後の展望	まちづくりの推進	2
	推進体制	
	推進プロセス	4
その他	その他	1
「三茶のミライ」以外への意見		3

### 3 区民意見募集における意見の要旨と区の考え方

番号	意見の要旨	大分類	中分類	区の考え方
1	<p>自身も参加したまちづくり会議での意見を9つの未来像にまとめているが、もう少しシンプルなキャッチが必要と感じ、つまるところ「職住遊のまち 三軒茶屋」を目指したいのだと思う。「職住遊」というシンプルなワードにし、それぞれがその項目に何が足りないか、何を自ら足して行きたいのか、それを積み上げるのがいい。</p>	第2章	9つの未来像	<p>まちづくり会議に、ご参加くださりありがとうございます。</p> <p>三軒茶屋駅周辺では、平成31年3月に策定した「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針」において、まちのビジョンに「進化し続ける交流のまち『三茶Crossing』」を掲げております。「三茶のミライ」は、このまちのビジョンを実現するために、「みんなの計画」として、区民・事業者・町会・商店街・大学など三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体が参加するまちづくり会議やシンポジウムで出し合った意見を大切にしながら整理・分類し、より具体的に導き出した9つのテーマを基に未来像を描いてきました。</p> <p>未来像実現に向けては、住む人・働く人・学ぶ人など地域の方をはじめ三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々との連携により、情報発信や社会実験などを行い、これを繰り返し、積み重ねながら発展させ、まちの未来像実現のための取組みを進めてまいります。</p>
2	<p>子育て世代向けのスペースやコミュニティの充実として、三軒茶屋交差点近くに、大人はくつろぎ子供も楽しめるスペースがあるとありがたい。子供の遊び場や交流の場は少なく、散歩に行き必要な買い物をして、その後ゆっくり遊べる場所がないので滞在時間は短くなる。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>未来像4には、「まちなかに広がる公共的空間が居心地の良い場所を生み、人とまちを繋ぎ、まち並みとみどりが調和した良好な環境が、人々の愛着心を育てている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「滞在性を向上させる公共的な空間の利活用の推進」や「商業空間の利活用により回遊性を高めるための休憩場所などの整備」、「質、量ともに豊かな地域に</p>
3	<p>子どもと訪れて楽しい街になると嬉しい。子供と三茶に</p>			

	行く交通量の多い大通り（危険性や騒音など）や、ゆったりできる広場やベンチなどがなく、子連れで入れる店が少ない、雨の日に過ごす屋内や地下施設が少ないという「居づらさ」がある。			するための緑地空間整備」などをあげております。 三軒茶屋駅周辺における公共空間を活用し、住む人・働く人・学ぶ人・訪れる人が、くつろぎ、交流できる空間を設けるなど身近な取組みを展開しこれを積み重ね、子どもの視点も大切にしたい居心地の良いまちづくりにつなげてまいります。
4	子供達の「遊」の場をどれだけ作れるか。ふれあい広場やいろいろな空間をもっと子供に解放できないのか。引き続き一緒に考えていきたい。			
5	世田谷区の玄関であり、電車・バスのアクセスも良いのに、夜の食事・飲み屋街に見えるのは勿体ない。 三軒茶屋らしい文化的な街が、赤ちゃんからお爺ちゃんお祖母ちゃんまで、居心地の良い場所になることを期待する。			
6	三軒茶屋には、玉川通りがあり、騒音、日当たりが悪く、健全な街の体をなしていない。			
7	衛生環境改善として、各テナントの衛生観念向上の啓蒙活動を一層強化し、地域や商店街全体として一体感を持って衛生向上に取り組んで頂きたい。	第3章	未来像を実現したまちの姿	未来像4には、「駅周辺は清潔感あふれる」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「定期的な美化活動及び路上喫煙禁止の啓発活動の推進」をあげております。 良好な環境のまちづくりにつなげていくためにも、清掃活動など身近なことから始め、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々と、まちの現状について情報共有しながら検討を積み上げ、地域の困りごとに対応できるまちづくりにつなげてまいります。
8	大通り（国道246号や世田谷通り）で分断され、子供を連れての階段の上り下りや交差点を渡るのは躊躇する。	第3章	未来像を実現したまちの姿	三軒茶屋駅周辺は世田谷区都市整備方針において、本区の「広域生活・文化拠点」として、文化や観光の発信地となっており、渋谷副都心

	<p>三軒茶屋交差点を中心に周囲を回遊するコミュニティビークルやパーソナルモビリティなどがあれば気軽に足を伸ばして三軒茶屋広域を楽しめる。自動運転の低速周遊バスや小型グリーンスローモビリティなど、子供も楽しめるので、検討頂きたい。</p>			<p>に近接し、道路・交通の集散する拠点であることを活かし、商業・サービス、業務、文化などの機能が充実した拠点と位置づけています。</p> <p>「三茶のミライ」には、未来像5に、「誰もが行きたいところに安心して移動ができ、まち全体が繋がっている。環境負荷の低い公共交通や自転車、新たなモビリティなどの様々な移動サービスが連携し、利用や乗り換えが快適になっている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「新たなモビリティなどの活用に向けた利用環境の整備及び利便性向上促進」などをあげております。</p> <p>モビリティに関する社会実験やまちの空間デザインに関する取組みとともに、交通利便性向上を目指した公共交通などの乗換え機能集約など他の未来像の取組みとも連携することで具体化し、回遊性が向上し安心して気軽に出かけられるまちづくりにつなげてまいります。</p>
9	<p>交通・運輸・輸送の点から街をどうすべきか。商店街を別の所に移転することも含めて、集中より分散を考えて、再検討すべきである。</p>			
10	<p>三軒茶屋は、世田谷区の交通の中心であり、交通網を如何に整備するかが大きな問題である。世田谷線の他の手段を考慮すべきである。世田谷区役所への移動はどのようにするのか？新しい交通ネットワークが必要だろう。</p>			
11	<p>未来像5の取組み「新たなモビリティなどの活用による利便性向上促進」実現のため、自動運転を見据えたオンデマンドバス、キックボードなど具体的なモビリティの記載、新たなモビリティが利用しやすいようモビリティ空間整備について、追加記載の検討をお願いしたい。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>新たなモビリティの利便性向上を促進していくためには、空間整備などを含めた利用環境の整備が必要であることから、未来像5の取組みを「新たなモビリティなどの活用に向けた利用環境の整備及び利便性向上促進」といたします。</p> <p>具体的なモビリティの記載については、今後の技術開発などによる様々な手法が考えられるため、イラストを用いた表現をしております。</p>
12	<p>未来像6の取組みについて、駅から地上への動線は狭い階段とエレベーター2基で、広く歩きやすい階段、エスカレーター、エレベーター、地下空間の整備といった歩行者ネットワーク改善によ</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>未来像5には、「地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できるなど、誰もが行きたいところに安心して移動ができ、まち全体が繋がっている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「通行環境の向上を目指した歩きや</p>

	る交通結節点としての駅の利便性向上、人々の活動促進について追加記載の検討をお願いしたい。			<p>すい歩行者空間整備」や「南北方向の分断回避を目指した道路横断機能の整備」などをあげております。</p> <p>また、未来像6を実現するための取組みとして、「交通利便性向上を目指した、公共交通などの乗換え機能の集約」、「地下空間における魅力ある広場などの創出」などをあげております。</p> <p>歩行者ネットワークの改善については、周辺開発などの機会を捉えた改善も必要になると考えております。また、地下空間の活用には、多くの課題や物理的要素もありますが、公共的空間の創出やルールづくり、歩行者ネットワーク改善も含め、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々と、こうした点について共有しながら検討を積み重ね、国道管理者や交通管理者、鉄道事業者など関係機関とまちの状況や情報共有を図り、「三茶のミライ」の実現に努めてまいります。</p>
13	国道246号の歩道が狭すぎる。田園都市線三軒茶屋駅も狭すぎる。246号の下に地下道や地下街を作れないか。			
14	世田谷線三軒茶屋駅から田園都市線三軒茶屋駅へのアクセスが悪く、歩く途中で雨に濡れ、喫煙所から煙も流れる。アクセス通路の途中に、イベントスペースや店などは不要。通勤や行楽で三軒茶屋は通過点である。			
15	世田谷線改札前と、世田谷線～田園都市線の乗換経路にある三茶パティオの一部に屋根がなく、雨の日に傘を差さざるを得ないので、屋根をつけてほしい。			
16	「三軒茶屋は世田谷区の表玄関」という言葉に相応しいものが描かれていない。表玄関といえば行政の中心施設が集約していることが想定されるが、区役所の大きなものはなく、せめて総合支所くらいは移転しても良いと希望する。「表玄関」と表現するに相応しく、世田谷区が覚悟を決めて取り組む姿を見せて欲しい。更に例えば、未来像7に災害に強く、安全・安心のあるまちとあり、老朽化した消防署を取り込み、防災センター機能も併設するといった姿勢を見せて欲しい。	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>世田谷総合支所については、区民の利便性の観点等から、移転整備に向けた検討も重ねましたが、コストや規模、人員面、で課題が大きいことから、現在の本庁舎敷地内に整備することとしました。</p> <p>「三茶のミライ」では、安全・安心に係る未来像のほか、未来像6に「公共サービスを始めとした拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えている」姿を描いており、これらを踏まえ、「三茶のミライ」の実現に努めてまいります。</p>

17	<p>三軒茶屋地域の生活環境の安心安全を向上させる開発をしていただきたい。夜間・深夜営業の飲食店が増えており、酔っ払い等（落書き）、治安が乱れるようになった。深夜人口を増やすような開発はしないでいただきたい。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>未来像6には、「拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「市街地の再構築として高度利用などによる魅力ある拠点の創出と商業・業務・滞在施設など機能集積」をあげており、こうした集積にあたっては、安全・安心が向上する開発を誘導してまいります。</p> <p>また、未来像7には、「まちに関わる人々が連携でき、防犯に対する体制が整っている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「防犯パトロール活動の継続体制構築と防犯体制の担う人材育成」や「まちの治安維持・向上を目指した仕組み構築」をあげております。</p> <p>未来像の実現には、地域の方をはじめ三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々と連携し、例えば、地域の防犯パトロールなど身近なことから始め、こうした取組みを積み上げ、安全・安心の向上につながるまちづくりを進めてまいります。</p>
18	<p>「三茶のミライ」の未来像、空間デザインの中からアイデアを取り入れた再開発を実現していきたい。</p> <p>街の建物には、防災面に問題があり早急に改善を要するものなどもあり、再開発準備組合も検討を進め、地権者が再開発の推進を望んでいる。現実的な街づくりに本格的に着手していなければならないのではないか。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>三軒茶屋駅付近は、老朽木造店舗などが幅の狭い道路に沿って建ち並ぶなど防災面での課題を抱えており、「三茶のミライ」では未来像7に、「建物の不燃化・耐震化・防災空間の充実などにより、防災性が向上している」姿を描いております。</p> <p>当該地区は、関係権利者により構成する市街地再開発準備組合が、再開発事業への合意形成に向け取り組んでおり、区は「三茶のミライ」のもと、魅力ある雰囲気継承する空間づくりについても創意工夫を図り取り組む再開発準備組合の活動を支援し、再開発事業に関する地域での</p>
19	再開発は、高い建物を建てるイメージがあり、それで			

	<p>は、三角地帯の景観や温かみが守りにくそう。</p> <p>しかし、防災の観点から耐火の建物にするため、個別の建て替えにあたり区が補助金を出してもらえると助かる。</p>			<p>理解を広げ、9つの未来像実現に向けたまちづくりにつなげてまいります。</p>
20	<p>三軒茶屋及びその周辺は、地震による大規模火災になる危険性が大きいいため、周辺部を含めて大規模火災の起こらない街をつくること。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>三軒茶屋駅周辺は世田谷区都市整備方針において、災害に強い市街地の形成を図るため、防災性の高い建築物の整備を誘導するなどとしております。</p> <p>「三茶のミライ」では、未来像7に、「建物の不燃化・耐震化・防災空間の充実などにより防災性が向上している」姿を描いており、これを実現するための取組みとして、「建築物の建替えや面的整備などを契機とした延焼遮断帯及び耐震化推進」、「防災に関する情報発信」などをあげています。</p> <p>三軒茶屋駅付近では、市街地再開発準備組合が多くの人で賑わう拠点としての課題を解決するため、老朽木造店舗などの更新に向け取り組んでおります。その周辺においても、住民参加による防災まちづくりの推進に力を入れており、建築物の不燃化、耐震化の促進や、道路の拡幅整備などを進めてきております。</p> <p>また、アートに関することについては、未来像1に、「次世代に誇れるまちの歴史や文化が継承され、新たなアートや文化が生まれ、まち全体がアートや文化であふれている」姿を描いており、まちの歴史や文化を次世代に継承していく取組みも必要と考えております。</p> <p>水害への対策については、国道246号と茶沢通りなどが交差する三軒茶屋交差点付近は、周辺地域より標高が高い箇所となっており、過去の浸水確認箇所一覧（平成元年～令</p>
21	<p>アートに予算は割かないで、インフラ整備に金をかけて、安全安心の街づくりを行ってほしい。老朽化したマンション等を再開発して、安全安心な街にしてほしい。</p>			
22	<p>国道246号と茶沢通りの合流地にある三軒茶屋は、大量の水流がぶつかり水害の恐れがあると思うが対策はどうなっているか。</p>			

				<p>和3年10月)において、区が把握している浸水は確認されておりません。一方で、交差点付近から離れた緑道近くでは、浸水が確認されているため、区では水害対策として、区道の雨水を地中に浸透させるため、浸透ますや透水性舗装などの整備をしております。さらに、雨水処理するための公共下水道を管理する東京都と連携しながら、対策に努めてまいります。</p> <p>引き続き、災害に強く安全・安心のあるまちの実現に向けて、取り組んでまいります。</p>
23	<p>三軒茶屋は小規模な店舗が多くそれが魅力でもあるが、まち全体で統一的な情報発信がされると、知らなかった場所や店舗を知るきっかけになる。地域 SNS や地域通貨の利用促進、地域の店舗の混雑状況が可視化できるサービス導入など、まち全体で情報発信やデータ基盤を整えることで、日々足を運ぶ人の利便性向上が増していく。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿	<p>まち全体での情報発信がされ、情報が共有されることは、大切なことと考えております。こうしたご意見を踏まえ、未来像9を実現したまちの姿を「様々な形でまちづくりに関われる機会が設けられ情報が提供されている」といたします。</p> <p>また、未来像実現のための取組みを「自主的なまちづくり推進体制及び日常的な情報発信などによる取組み参加推進の仕組み構築」とし、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々の利便性向上へ、取組みを積み上げ、まちづくりにつなげてまいります。</p>
24	<p>未来像6の取組み「公共的空間の活用促進」の前提として、多様な主体による質・量ともに高いレベルでの公共的空間の創出を促すため、官民連携による公共的空間の整備について追加記載の検討をお願いしたい。</p>	第3章	未来像を実現したまちの姿、まちの空間デザイン	<p>「三茶のミライ」の実現にあたっては、官民連携は欠かすことのできない取組みであり、区民・事業者・町会・商店街・大学など、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体が連携した「みんなの計画」であるということを基本理念とし、9つの未来像実現に向けての各取組みは、官民連携の要素を踏まえていくことを前提としております。</p>
25	<p>パブリックスペース確保には街区の再編、高度利用が前提となるため、「拠点性を活かした都市機能集積、パブリ</p>	第3章	未来像を実現したま	<p>パブリックスペースの創出には、市街地の再構築による高度利用も有効な手法と考えております。</p>



	<p>ックスペースの創出、防災性の向上」の考え方に高度利用の追加記載の検討をお願いしたい。</p>		<p>ちの姿、まちの空間デザイン</p>	<p>未来像6には、「拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えている」姿を描いております。これを実現するための取組みとして、「市街地の再構築として高度利用などによる魅力ある拠点の創出と商業・業務・滞在施設など機能の集積」をあげており、また、「まちの空間デザインの大切な4つのポイント」には、高度利用の手法も踏まえ、「拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上」を記載しております。</p>
26	<p>三軒茶屋のような回遊性のポテンシャルの高いまちのビジョンにおいて、ウォークアブルなまちづくりと関連するキーワードが多数盛り込まれたことは、大変うれしい。特に、シェアドスペース、時間指定レーンマネジメントなどは、ストリートデザイン・マネジメントの主流となりそのようなキーコンセプトで、是非積極的に取り組んでいただきたい。</p>	第3章	<p>まちの空間デザイン、まちづくりの推進</p>	<p>居心地が良く歩きたくなるウォークアブルなまちづくりは、三軒茶屋にも大切な視点と考えております。</p> <p>「三茶のミライ」には、「まちの空間デザインの大切な4つのポイント」に、歩行者空間の充実や、回遊性の向上、南北移動の円滑化、パブリックスペースの活用・創出をあげております。</p> <p>今後、まちづくり会議の継続や、国のまちなかウォークアブル推進プログラムなども参考にしながら社会実験を行うなど、小さな取組みを展開し、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々の連携を深め、多様な主体によるソフトとハードが一体となった大きなまちづくりにつなげてまいります。</p>
27	<p>三軒茶屋地域や商店街に人が回遊する事で、地域特性が多様化し、文化や歴史がつくられ、商店街も発展するため、南北の回遊性を高める事は重要だと思う。建物の間の2階以上の部分をつなげ地下空間を開発して、地上に人が歩かないような動線の開発は望ましくない。</p>			

28	歩道拡幅や仮設物を用いた小規模なまちの居場所づくりなど、定石の手法や小さなアクションの積み重ねと並行して、ぜひチャレンジな都市デザインが実現することを期待している。			
29	「推進体制」について、TMO（BIDが良い）を法人化して早期に活動できるように望む。参加者は一株主となり、責任ある参加主体としなり、区も出資して一定の責任（当初の中心市街地活性化法の時のように）を持って参加頂きたい。	第4章	まちづくりの推進	持続可能な協働のまちづくりを推進するためには、住む人・働く人・学ぶ人をはじめとするまちづくりの担い手となる方々や、まちづくり支援組織、世田谷区がそれぞれの立場や強みを活かしながら参加する体制が必要と考えており、区は担い手の一員として参加するとともに、公共施設や公的施設の利活用に向けた調整などの支援をしていきます。 支援組織は、担い手同士の連携を支援し、関係者間の調整を担うなど、まちづくりを中立的な立場で支援していくことが必要と考えており、今後、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々と推進体制の構築に向けた実現手法も検討してまいります。
30	区民と行政が共に歩むための翻訳をするようなしなやかさとクリエイティビティを備えた公民の中間組織があると良い。 理論的には正しいのに実行されない場合、そこに欠けているものは何か。河を渡る橋を三軒茶屋からまずかけてほしい。			
31	まちづくり会議などに参加し、三軒茶屋に関心のある人が沢山いることが分かった。 誰もがまちづくりに関わる未来が一番大事と思い、いい街になるかどうかの分かれ道は、自分達の街を自分達で作っていくという当事者がどれくらいいるかだ。 今後も積極的に参加し、作り手の一人として関わっていききたい。	第4章	推進プロセス	誰もがまちづくりに関われることは、あらゆるまちづくりに共通する大切なことと考えております。 「三茶のミライ」を基に、継続してまちづくり会議を開催し、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ方々と情報共有や意見交換を図り、新たなまちづくりの担い手や支援組織の育成などに取り組んでまいります。 また、三軒茶屋駅周辺における広場等の活用事例を踏まえ、公共空間などの利活用の工夫を図り、まちづ

32	<p>パブリックスペース活用による「くつろぎ、拠点性、地域参加」は、魅力的なまちには欠かせない。一方、各未来像がどの形になればゴールか？をより明確にすべき。例えば、キャロットタワー、ふれあい広場など、数多くの活用事例があり、事例を深掘り・見つめ直し、より具体的な未来像を描く、この先区民と考える機会を改めて作って頂きたい。</p>			<p>くりの気運と熟度を高めていきます。さらに、学識経験者や地元有識者などの助言も受けながら、9つの未来像実現に向け、まちづくりの担い手が積極的かつ様々な形で関与できる推進体制の構築を目指していきます。</p> <p>今後もぜひご参加ください。</p>
33	<p>9つの未来像は、すぐに取り組めるものから長期的なものまである。街づくりは単線ではなく複線で取り組むのが良いので、推進体制が整ったら、それぞれのロードマップを描いて、複数のチーム編成で取り組むと良い。</p> <p>まちの姿・未来像は、時代とともに変わるので、これからも参加し、皆さんと議論を重ねていきたい。</p>			
34	<p>9つの未来を実現するために、今後の基本計画、基本設計、実施設計に携わりたい。</p>			
35	<p>区の基本姿勢として個別の三軒茶屋とその近隣地域のみを視るのではなく、本計画が全区民にどう関わりどういう利益をもたらすのか、区を俯瞰する視点から吟味し考慮し進めるよう要望する。</p>	その他	その他	<p>世田谷区都市整備方針において、商業業務機能及び文化情報発信機能が集積し、全区的な「核」とすると同時に、本区を越えた広域的な交流の場を「広域生活・文化拠点」とし、三軒茶屋、下北沢、二子玉川駅周辺地区の3地区を位置づけています。</p> <p>三軒茶屋駅周辺地区は、本区の文化や観光の発信地となっており、渋谷副都心に近接し、道路・交通の集散する拠点であることを活かし、商業・サービス、業務、文化などの機能が充実した親しみやすく庶民的雰</p>

				<p>困気をもつ拠点とする、としております。これに基づき三軒茶屋駅周辺でのまちづくりの進め方を明らかにする目的として、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体と「三茶のミライ」をとりまとめてきました。</p> <p>今後、社会実験や多様な主体と連携した活動のフィードバックからまちづくり活動と広域生活・文化拠点としてのまちの発展に向けた取組み内容を具体化し、「三茶のミライ」を実現に努めてまいります。</p>
36	<p>区民サービスの地域格差・偏りを是正するため、文化関連事業に関して、二子玉川地区においても三軒茶屋と同等に区の資源の投下を要望する。</p>	<p>「三茶のミライ」以外への意見</p>	<p>区の文化・芸術事業については、区民サービスの地域格差や偏りが生じることのないよう、関係機関と連携し取り組んでいきます。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の文化・芸術振興施策の参考とさせていただきます。</p>	
37	<p>従来実施されてきた文化関連事業の一定部分について、玉川総合支所せせらぎホールを意図的・積極的に活用するよう要望する。</p>		<p>区では、区民の誰もが文化・芸術に触れ、体験・参加し、気軽に楽しむ機会を創出するため、区内各地域のさまざまな施設を利用し文化・芸術事業を展開しています。</p> <p>玉川せせらぎホールの活用につきましては、今後の事業計画検討の参考とさせていただきます。</p>	
38	<p>区最南部（東玉川、奥沢一丁目～四丁目）から自由通りを経由して、三軒茶屋及び区役所へ直行するバス路線の新設を推進するよう要望する。</p>		<p>区では南北公共交通の強化や公共交通不便地域対策に取り組んでおりますが、新たなバスの導入には、事業の採算性やバスが通行する道路の安全性の確保、沿道住民の理解など、課題が少なくありません。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の南北公共交通の参考とさせていただきます。</p>	